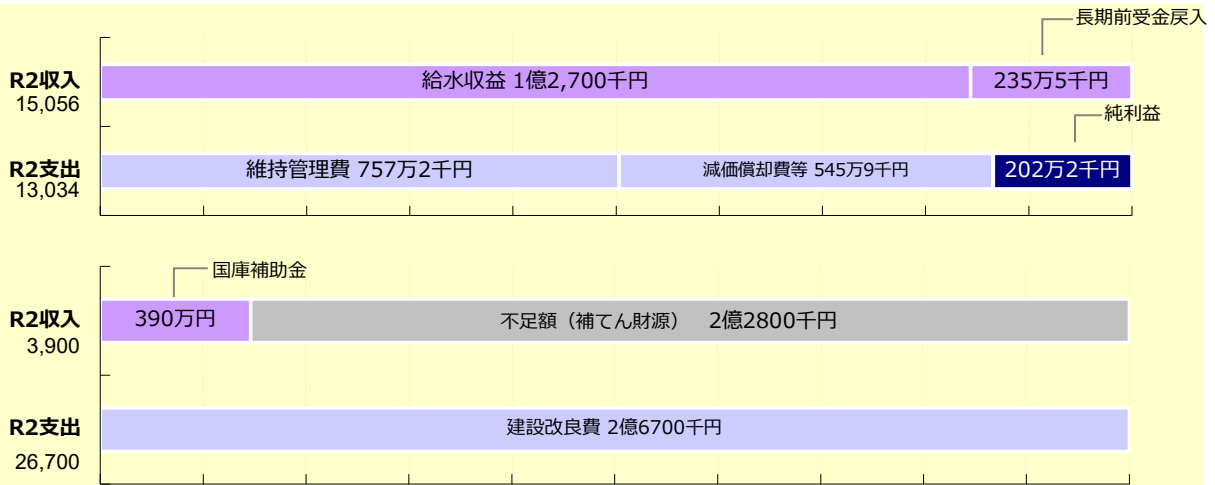


宮崎市上下水道局 令和2年度 決算概要（工業用水道事業）



収益的収支（税抜、単位：千円） 資本的収支（税込、単位：千円）



平成22年3月23日、本市は清武町との合併に伴い、工業用水道事業を引き継ぎました。
宮崎学園都市ハイテクパーク内の企業2社（バクスター㈱・富士フィルムワコーケミカル㈱）へ工業用水を供給しています。



※減価償却費…長年使用する資産の取得費用を耐用年数に応じて費用化したもの
※長期前受金戻入…長年使用する資産の取得時に交付された補助金等を減価償却費と同様に収益化したもの

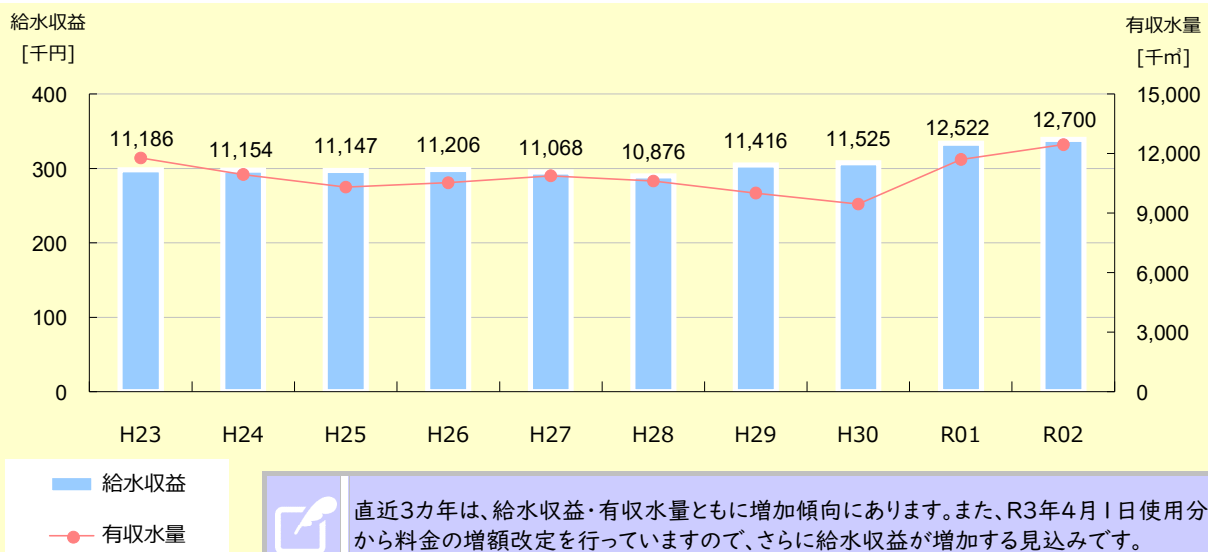


【決算のポイント】

- ・ R元年度と比較して、給水収益等の収益が128万1千円増加しました。
- ・ 純利益（黒字）202万2千円を計上しました。
- ・ 不足額を内部留保資金（損益勘定留保資金など）で補てんしました。
- ・ 建設改良費の将来の増額を見込み、純利益の処分案と併せて、利益積立金の全額（1,498万1千円）を建設改良積立金に組み替えることとしました。



給水収益及び有収水量の推移（単位：千円、千³m）



～なぜ、有収水量が減少して給水収益が増加する年度があるのか？～

工業用水道事業会計では、責任水量制をとっており、実際に使用した水量が契約水量より少ない場合でも、契約水量分の料金を請求しています。また、契約水量を使用水量が超過した場合は超過料金を加算して請求しています。そのため、工業用水道事業会計においては有収水量と給水収益が必ずしも比例する状態にはありません。